



「G8高校生サミット」の提言書を森首相に渡す(左から)浜田好恵さん、喜屋武百合子さん、友寄隆智君—12日午後、首相官邸

環境税実施 首相に提言

G8高校生サミット代表

【東京】六月下旬に開かれた「G8高校生サミット」を代表して県内の高校生三人が十二日、首相官邸を訪ね、地球規模の環境税実施などを求めるG8高校生サミットの提言書を森喜

朗首相に手渡した。森首相は「皆さんの提案をしっかりと受け止め、次代の責任者がきちんと実行できるように約束しよう」と述べた。G8首脳には、各国の高校生代表が提言を伝えて

いる。

高校生代表は、昭和薬大付属高三年の友寄隆智さん、知念高三年の浜田好恵さん、球陽高二年の喜屋武百合子さん。高校生サミット実行委員長の樋口広太郎・アサヒビール名誉会長、同副委員長の小玉正任・沖縄協会会長が同席した。友寄さんは「国際会議で自分の考えを相手に伝えるのは難しいが、非常に意義があった」、浜田さんは「みんなで一つのことをくり上げる事ができた」、喜屋武さんは「世界の平和について討論できた」とそれぞれ高校生サミットに参加した感想を述べた。



白熱した議論を展開するG8高校生サミット分科会
参加者ら―宜野湾市・沖縄コンベンションセンター

G8高校生サミット

世界平和へ若者の力

ざん新たなアイデア続々

沖縄サミット参加国の高校生らが環境、平和、経済について討議する「G8高校生サミット」が二十四日、宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで開幕した。二十五日まで。世界の課題に若者の視点からざん新で実現可能な提案を目指す。

初日はサミット開催国の日本から沖縄、福岡、宮崎県代表のほか、七カ国から計三十人が分科会に参加。環境問題の解決に「環境税や世界共通の教育カリキュラムをつくる」、世界平和の維持に「若者や専門家が参加する調停機関をつくり、そこでの議論をインターネットで公開」など白熱した議論を交わした。

フロアには全県から約二百六十人の高校生が参加、代表者の討論に熱い視線を送った。

環境分科会では、福岡県修猷館高校の梅井寿乃さんが電気の大切さを認識するため「二度、世界の電源を落としてみよう」と提案。これに対し、カナダのタン・サン・ニュエンさんが「経済的な混乱もあり、実現は難しいが、電気が使えない状態をコンピュータでシミュレーションし、環境教育に生かす」と

「環境分科会では、福岡県修猷館高校の梅井寿乃さんが電気の大切さを認識するため「二度、世界の電源を落としてみよう」と提案。これに対し、カナダのタン・サン・ニュエンさんが「経済的な混乱もあり、実現は難しいが、電気が使えない状態をコンピュータでシミュレーションし、環境教育に生かす」と

「環境分科会では、福岡県修猷館高校の梅井寿乃さんが電気の大切さを認識するため「二度、世界の電源を落としてみよう」と提案。これに対し、カナダのタン・サン・ニュエンさんが「経済的な混乱もあり、実現は難しいが、電気が使えない状態をコンピュータでシミュレーションし、環境教育に生かす」と

「環境分科会では、福岡県修猷館高校の梅井寿乃さんが電気の大切さを認識するため「二度、世界の電源を落としてみよう」と提案。これに対し、カナダのタン・サン・ニュエンさんが「経済的な混乱もあり、実現は難しいが、電気が使えない状態をコンピュータでシミュレーションし、環境教育に生かす」と

「環境分科会では、福岡県修猷館高校の梅井寿乃さんが電気の大切さを認識するため「二度、世界の電源を落としてみよう」と提案。これに対し、カナダのタン・サン・ニュエンさんが「経済的な混乱もあり、実現は難しいが、電気が使えない状態をコンピュータでシミュレーションし、環境教育に生かす」と

